

東邦ホールディングス CSR報告書 2022

Toho Holdings CSR Report

ひとりひとりのエコアクト



共創未来

東邦ホールディングス株式会社

目次

[トップメッセージ]

全ては健康を願う人々のために、社会から必要とされる企業を目指して努力を続けていきます 3

[サステナビリティ方針]

企業価値を高めるとともに、持続可能な社会の実現に貢献します 4

[座談会]

次の30年に向けて「MAXIS 2021」で改革を進めています 6

[事業概要]

健康を願う人々のために、「安全」と「安心」をお届けしています

- ①事業の全体像 グループ間の連携を深めて、相乗効果を生み出しています 8
- ②新型コロナウイルス感染症対策 検査キットや治療薬の配送、「顧客支援システム」で感染拡大防止に寄与しています 10
- ③医薬品卸売事業
 - 物流 災害時でも事業を継続できる高度な物流体制を構築しています 12
 - 顧客支援システム みなさまの課題解決をサポートするため、日々新しいシステムを開発しています 13
- ④調剤薬局事業 患者さまに寄り添える薬剤師を育成して、地域の医療に貢献します 14
- ⑤医薬品製造販売事業 厳格な品質管理体制を構築して、ジェネリック医薬品を安定供給しています 15

[活動報告]

よりよい社会づくりのお役に立てるよう、CSR活動に取り組んでいます

- ①環境のために エネルギーの使用量を可視化して、CO₂排出量削減に取り組んでいます 16
- ②患者さまのために 独自のシステムやサービスを開発して、利便性を高めています 18
- ③顧客のために 業務に役立つシステムやサービスを提供して、医療機関をサポートしています 20
- ④社員のために ダイバーシティを重視して、誰もが働きやすい環境を整えています 22
- ⑤地域社会のために 健康に資する取り組みを通じて、地域のみなさまを支援しています 24
- ⑥株主のために ガバナンス体制を強化して、健全な経営を続けていきます 26

編集方針

当社グループは、医療・健康・介護に貢献することを目的とする事業体として企業の社会的責任（CSR：Corporate Social Responsibility）を果たすべく、さまざまな取り組みを積み重ねています。このCSR活動の内容と今後の方向性をステークホルダーのみなさまにご報告するために、2008年度より「CSR報告書」を作成しています。株主や投資家の方々はもちろんのこと、広く患者さまや顧客のみなさま、地域社会のみなさま、さらに社員をも加えて、わたしたちの事業に深く関わるステークホルダーとしてご報告の対象としました。

対象組織

報告の対象は東邦ホールディングス（株）および連結子会社についてです（非連結子会社の一部も含みます）。これらを文中では「当社グループ」と表記し、事業持株会社は「当社」としています。

対象期間

2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）
一部、当該期間外の取り組みも含まれています

発行

2022年12月（次回発行は2023年11月予定）

注記 1：文中の数値は端数を切り捨て処理しています 2：「病院」は病床数20床以上、「クリニック（診療所）」は19床以下の医療機関を指します

全ては健康を願う人々のために、 社会から必要とされる企業を目指して 努力を続けていきます

医療・健康・介護分野に携わる企業集団として、果たすべき責務とはなにか。
当社代表が現在の主な取り組みと今後の目標をお伝えします。



東邦ホールディングス株式会社
代表取締役CEO

有 働 敦

いかなるときでも医薬品を安定供給することが わたしたちの使命です

当社グループは、「全ては健康を願う人々のために」というグループスローガンのもと、医薬品卸売、調剤薬局、医薬品製造販売などの事業を展開しています。

医薬品は、人々の生活にとって欠かすことのできない商品です。この医薬品を、いかなるときでも、みなさまにお届けすることがわたしたちの使命です。当社は、物流の効率化と首都圏災害への迅速な対応を目指し、最先端技術を導入した高機能物流センターである「TBCダイナベース」を設置しています。また、全国各地にある物流センターのシステムを連動させることで、商品の在庫状況の把握や拠点間の移動を容易にし、災害時やパンデミック時でも、滞りなく事業を継続できるようにしています。

2021年以降は、ジェネリック医薬品の供給不足が社会問題となりました。GMP（医薬品の製造管理及び品質管理の基準）違反による回収などが相次ぎ、流通量が減少したためですが、当社はグループ内の共創未来ファーマ（株）が厳格な品質管理体制のもとでジェネリック医薬品を販売しており、安定供給に努めています。

環境負荷の低減や 働き方改革に取り組んでいます

国連で採択されたSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）17項目の達成に貢献するべく、わたしたちはESG（Environment：環境、Social：社会、Governance：ガバナンス）を重視して、持続可能な社会の実現に向けて努力しています。

環境については、事業活動を通じて気候変動対策や廃棄物の削減など、環境負荷低減に取り組んでいます。定温搬送装置「サルム」は、利用時の温度管理状態を記録することで薬の品質を担保できます。これにより、高額なスペシャルティ医薬品などの返品・再販売が可能となり、廃棄リスクを減ら

します。さらに、搬送時にドライアイスや保冷剤を使用しないため、CO₂排出量の抑制にも貢献します。また、薬局本部システム「ミザル」は、自動発注機能と連動させた計画配送が可能です。「ミザル」の導入が進むことで、地域一帯の配送回数が最適化され、将来的にはガソリンの使用量の削減が実現すると考えています。

社会については、地域医療や地域包括ケアシステムの構築に貢献すべく、MS（営業担当者）が医療機関や薬局、介護施設などの関係者をつなぐ役割を担っています。また、全国各地に営業所がある利点を生かして、認知症の方のための「見守り協定」を自治体と結ぶなど、地域社会との関わりを深めています。さらに、調剤薬局では「モノからヒトへ」業務をシフトしており、患者さまに寄り添って、治療や生活のサポートをすることで、地域の方々にとって、なくてはならない存在になることを目指しています。人材活用については、職能別の研修など、業界を取り巻く環境変化に応じた人材育成を行なうことで、社員ひとりひとりが最大限活躍できる環境の整備を進めています。社内改革推進プロジェクト「MAXIS（マクシス）2021」でも議論しており、働き方改革に取り組んでいます。

ガバナンスについては、リスクマネジメントを強化するため、全従業員にコンプライアンス研修を義務付けて、法令遵守を徹底しています。また、多様な意見を経営に取り入れるため、取締役会での社外取締役と女性取締役の比率の適性化を図っています。

持続可能な社会の実現に向けて 「ひとりひとりのエコアクト」に取り組めます

わたしたちは持続可能な社会の実現のために、「ひとりひとりのエコアクト」を合言葉にして、社員ひとりひとりが自分のできることをコツコツと積み重ねていくことを大切にしています。事業活動を通して社会的課題の解決に向けた着実な取り組みを続け、サステナブルな社会の実現に向けて貢献してまいります。

企業価値を高めるとともに、 持続可能な社会の実現に貢献します

当社は、グループのすべての活動が目指すべき目標として「グループスローガン」を定めています。

また、取締役会において、環境・社会・ガバナンス要素を含む

中長期的な持続可能性への取り組みについて「サステナビリティ方針」を策定しています。

グループスローガン

全ては健康を願う人々のために

サステナビリティ方針

わたしたちは、「社会・顧客と共生し、独創的なサービスの提供を通じて新しい価値を共創し、世界の人々の医療と健康に貢献します」という経営理念に基づき、医療・健康・介護分野に携わる企業集団として、事業を通じた社会課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

わたしたちの使命

- ・医薬品をいかなる時にも安定供給する
- ・地域の皆さまに質の高い医療サービスを提供する
- ・高品質な製品の提供を通じて人々の健やかなくらしに貢献する

基本的な考え方

E [環境]

環境保全を現代社会の大きな課題と捉え、社員ひとりひとりが自覚を持って省エネルギーやCO₂排出抑制、廃棄物削減に取り組めます。

また、全員参加による環境負荷低減活動と、事業活動を通して次の世代に向けた環境改善を企業全体で積極的に推進することにより、地球環境との調和と豊かな社会の実現を目指します。

S [社会]

医療および健康関連企業としての公共性と社会インフラとしての使命を認識し、非常時でも医療提供体制を維持するため医薬品などの安定供給を最優先課題としています。また、社員ひとりひとりが健康でやりがいを持って働ける職場であることが重要と考えており、ワーク・ライフ・バランスを実現する働き方改革にも取り組んでいます。

G [ガバナンス]

コーポレート・ガバナンス体制の充実を重要課題のひとつとし、コンプライアンスおよびリスクマネジメントの推進による内部統制機能の強化、さらに取締役会による経営監視機能と監査等委員会による監査機能を充実・強化することで透明性のある企業統治体制を構築しています。また、取締役会の諮問機関として、任意の「指名・報酬委員会」を設置し、役員の指名・報酬などに関する意思決定の透明性・客観性を高めています。企業としての社会的責任を果たすとともに、持続的な成長による企業価値の向上を実現していきます。



重要課題

	重要課題	主な取り組み	具体的な内容
E 環境	エネルギーの効率使用	省エネルギー、CO ₂ 排出抑制	・ 配送の効率化によるCO₂排出量の削減 ・ 物流センターでのBEMS※使用によるエネルギー管理
	廃棄物の削減	廃棄物の削減	・ 医薬品廃棄ロスの削減 ・ ペーパーレス化の推進
S 社会	医薬品の安定供給、品質・安全・効率性の向上	医薬品の安定供給、品質・安全・効率性の向上	・ 高機能な物流体制の整備 ・ 共創未来ファーマ独自の検証システムによる品質の担保 ・ 薬局本部システム「ミザル」の活用による業務効率化 ・ 地域連携薬局の配置など、薬局機能の強化
		自然災害・パンデミックへの対応	・ BCP対策の強化
	人権尊重、人材育成、研修の充実	人権尊重	・ 専用の相談窓口を社内および社外に設置
		人材育成/研修の充実	・ 各種研修の実施
	職場環境の整備	多様な社員が活躍できる環境整備	・ 性別・国籍などを問わない採用 ・ 取締役および執行役員への女性登用
		労働時間管理の徹底	・ 残業時間の削減
		柔軟な働き方	・ テレワークや時差出勤の活用
		IT技術の活用	・ 営業支援端末「Meissa（メイサ）」の活用 ・ 「顧客支援システム」の活用による業務効率化
	健康管理	社員の健康管理	・ 栄養相談・健康相談の実施 ・ コロナワクチンの職域接種実施
	地域社会への貢献	地域への貢献	・ 薬局店舗での健康フェアや独自の取り組み ・ 自治体への「どこシル伝言板」の導入および利用の推進 ・ 自治体との「見守り協定」の締結
		創業の地 世田谷区への貢献	・ 女子サッカークラブへの協賛 ・ 舞台芸術普及プログラムへの協賛
G ガバナンス	コーポレート・ガバナンス体制の充実、リスクマネジメント、コンプライアンス	コーポレート・ガバナンスの充実	・ 取締役会構成の見直し ・ 任意の「指名・報酬委員会」の設置
		グループ・コンプライアンス・リスク管理委員会の設置	・ 「グループ・コンプライアンス・リスク管理委員会」の定期的な開催 ・ リスク要因の早期発見 ・ リスク発生防止体制の検証と改善
		倫理綱領の周知徹底と法令遵守	・ グループ全体として共有すべき価値の浸透、重要法令および行動基準の正しい理解・浸透
		コンプライアンス研修の実施	・ 全従業員へのコンプライアンス研修の義務付け ・ 営業職に対する独占禁止法遵守に関する研修の実施

※BEMSとは「Building Energy Management System：ビル・エネルギー管理システム」の略です

グループを挙げて コンプライアンスを強化しています

●委員会を設置して、定期的開催しています

「グループ・コンプライアンス・リスク管理委員会」を定期的に開催しています。代表取締役 CEO の有働敦が委員長に任じ、組織横断的にグループのコンプライアンスおよびリスクに関する課題を検討し、その強化に取り組んでいます。

●倫理綱領を配付し、法令や社会規範を周知しています

倫理綱領は業務活動における行動指針を定めたもので、医薬品医療機器等法、独占禁止法などの関連法規を遵守するためのポイントも解説しています。全従業員に配付し、各事業所に常備して業務委託先のスタッフにも周知徹底しています。

●社内規程を整備し、体制強化を図っています

コンプライアンス推進規程、贈賄および腐敗行為防止規程、反社会的勢力排除規程を整備しました。コンプライアンス推進規程では、コンプライアンス推進における責任者、推進担当部署、役職者の役割を明確化し、全従業員に対して周知徹底を図っています。

●コンプライアンス研修を充実させています

全従業員に研修を義務付け、倫理基準や独占禁止法、医療用医薬品卸売業公正競争規約など、毎回テーマを決めて各自のコンプライアンスへの意識を高めています。営業職に対しては外部弁護士による独占禁止法遵守研修や贈収賄防止研修などを追加・実施し、周知徹底しています。

次の30年に向けて 「MAXIS 2021」で改革を進めています

2021年、若手社員による社内改革推進プロジェクト「MAXIS 2021」を開始しました。

「MAXIS」とは、MAXIMUM（最大限・最高）とAXIS（軸）を合わせた造語です。

「顧客支援の変革」「営業の変革」「物流の変革」「内勤業務の変革」「その他の変革」という5つのチームで課題を洗い出し、解決策を議論しています。

当社CEOと各チームの代表者が、社会に必要な企業であり続けるために何が必要か話し合いました。

常識を変えて、冒険してほしい

有働：最初の「MAXIS」は、創立45周年の1993年に始まりました。当時の東邦薬品は独立採算制で、各支店長が社長のよう権限を持って自由に営業をしていたと聞いています。でも、世の中の変化に合わせて会社がひとつにまとまらないといけないということで、さまざまな改革を実行しました。この第1期「MAXIS」があったからこそ、薬の卸売だけではなく「顧客支援システム」で勝負するといういまの東邦があります。来年は75周年を迎えますが、世の中はどんどん変わっていて、ここで思い切った改革をする必要があります。だからみなさんにはどんどん常識を変えてほしい。「冒険」してほしい。それがわたしの思いです。

徳山：「顧客支援の変革」チームでは、「顧客支援システム」の個性をどう伸ばしていくかを中心に話し合っています。現在の主な顧客は医療機関ですが、患者さまがダイレクトに利用できるサービスの拡充も視野に入れています。

三浦：「営業の変革」チームでは、営業業務を効率化することによって「顧客支援システム」の提案に力を注げる体制をつくろうとしています。提案するには、個々のコンサルティング力が必要なので、育成についても議論しています。

翠川：「物流の変革」チームは、急配、頻回配送をなくすことを目指していますが、一方的に配送回数を減らすのではなく、「ミザル」をより進化させるなど、お得意先が困らないような仕組みづくりを考えています。

田村：「内勤業務の変革」チームは、DX（Digital Transformation：デジタルトランスフォーメーション）によって事務作業のさらなる自動化やグループ内の管理業務の統一化を目指しています。労働人口が減少し、年々人材の確保がむずかしくなってくるなかで、業務が効率化されれば、魅力ある企業になるのではと思っています。

安藤：「その他の変革」チームは、グループ全体で取り組めることとしてSDGsをテーマに挙げています。とくにペーパーレス化を検討していて、最終的にはテレワークでも仕事ができる環境を整えていきたいと考えています。

DXを進めて「ヒト」中心の業務へ

有働：企業というのは、社会から必要とされているかどうかですべて。患者さまや医療機関の方から「よかった」「ありがとう」と言ってもらえたら、社会にとって必要な企業といえます。

翠川：わたしたち卸は日々医療機関の方と接しているので、薬をお届けするだけでなく、病気の早期発見、早期治療に役立つ情報を伝えることも必要かなと思っています。たとえば、病気のなかには一見すると別の病気と症状がよく似ていて発見がむずかしいものがあるので、医師や薬剤師の方が診断や治療につながるヒントを得られるような情報を提供したり。

安藤：わたしは、薬剤師として日々患者さまと接するなかで、薬という「モノ」中心の業務から患者さまなどの「ヒト」中心の業務へシフトすることの大切さをすごく感じています。「話を聞いてほしい」という患者さまの声は多い。「ミザル」を使って自動発注をするなど、時間をどう捻出するかはいつも考えています。やはりDXは欠かせません。

徳山：薬のピッキング作業をなくせるのかもポイントだと思います。ピッキングを自動化して、薬剤師の方々はオンラインなども活用し、患者さまとしっかりつながる。そんなシステムができないか考えています。

田村：心の余裕も必要ですね。MSも作業が手一杯で焦りがあると、医療機関の方々の課題を理解し、最適なご提案をすることはできません。

「キャリアパス」を示して、もっと働きやすく

安藤：チーム内では、働き方改革も課題として挙がりました。薬局でも若手薬剤師が辞めてしまうことがあり、「キャリアパス」が見えにくいからではないかと議論しています。当社は大きいグループなので、本当は薬局以外でもやりたいことができます。キャリアパスをうまく示せたらいいのですが……。

有働：独立採算制だった当時は異動をあまり必要としていなかった。でも、いまは柔軟に動けたほうがいい。海外業務にもチャレンジできますしね。グループ企業の社員のみなさん



〈後列〉

「顧客支援の変革」

東邦薬品(株) 事業戦略室 課長
徳山友喜

「その他の変革」

(株) ファーマみらい 薬局運営部 1 部 首都圏Aブロック長／薬剤師
安藤彩也香

「営業の変革」

東邦薬品(株) 千葉営業部 船橋営業所 課長
三浦卓也

〈前列〉

「物流の変革」

東邦薬品(株) 長野営業部 上田営業所 副所長
翠川泉

東邦ホールディングス(株)

代表取締役CEO
有働敦

「内勤業務の変革」

東邦薬品(株) 東京営業部 病院第5部 係長
田村賢洋

には「いろんなことに挑戦できるから、興味があったらやってみて」というメッセージを、いままで以上に発信していく必要がありますね。

翠川: キャリアでいうと、社会の高齢化にも対応したいですよね。経験を積まれたからこそできる仕事もあると思うので、たとえばその方たちのポジションを考えることも大切だと思っています。

田村: 先輩方が築いてきたもののなかにもよいものがたくさんあると思うので、DXを推進するにしても、誰もが同じように働ける環境にできるといいですね。

三浦: スペシャリストを育成できる仕組みも考えていきたいですね。配送のスペシャリストとか、物流センターにも、物流機能の高度化に合わせて、それに対応できるスペシャリストが必要になるはずです。得意な部門で活躍できるような仕組みを検討していきたいと思います。

「社会に必要とされる企業に」をもっと共有する

徳山: グループの目指すべき方向をみんなで共有するというのも課題ですよ。さきほど有働CEOから「社会から必要とされる企業に」という話がありました。理想としては、どこを目指しているかというのを従業員の共通認識になるようにしっかりと伝えて、目指す方向に対してどういう施策を打つか、どういう人材が必要か、どういうツールが必要かというふうに落とし込んでいけたらいいのではないかと思います。

有働: それはわたしの反省点でもあります。「MAXIS 2021」のみなさんにも意見を聞きながら、「我々はこういう方向に向かうんだ」という全体像を従業員のみなさんに示して理解を得たいと思っています。社内のみなさんの心に響く成長戦略を描いていきたい。

三浦: ベクトルを合わせるのはとても重要なことだとわたしも思います。当社には多くの部署や関連企業があるので、それぞれが違う方向を向いてしまうと、不都合や問題が出てきます。今回「MAXIS 2021」で部門を越えて集まることができ、今日も本社や営業所、薬局という立場が違うみなさんとディスカッションができてよかったです。これからも垣根を越えて、ベクトルが同じ活動ができればいいですね。

有働: 今日は、「MAXIS 2021」でいろいろな活動に取り組んでいるということを改めて知ることができました。ありがとうございます。冒頭に話したとおり、45周年のときの「MAXIS」は、さまざまな施策を具現化しました。だから、今回もみなさんが何かを実現して、次に引き継いでほしい。ここでやっていることがこれからの30年のなかですごく大事だということを、ぜひ、忘れないでほしいなと思います。それと、「どうしたら社会に貢献できるか」ということを考え続けてほしい。そのためにはいまやっていることを壊して新しいものをつくらなければならないと思います。わたしとしては、何年か先には「医薬品卸」という業態から脱却したい。そういう思い切った冒険を、ぜひ、この「MAXIS 2021」でやってください。

健康を願う人々のために、
「安全」と「安心」をお届けしています

医薬品卸売事業と調剤薬局事業および
医薬品製造販売事業を中核として、
健康にまつわるさまざまな分野で活動しています。

① 事業の全体像

グループ間の連携を深めて、 相乗効果を生み出しています

卸売事業会社は、IT系の子会社とともに「顧客支援システム」を開発して、医療機関や患者さまに提供しています。調剤薬局事業の各薬局は、そのシステムを患者さまへのサービス向上に役立てています。製造販売事業会社は、卸売事業、

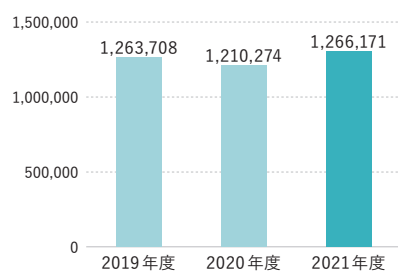
調剤薬局事業とともに市場の需要をつかみ、医薬品を計画的に生産して、安定供給につなげています。このように、各事業が緊密に連携できることがわたしたちの強みです。連携から生まれた大きな力で、社会に貢献します。



財務データ(連結)

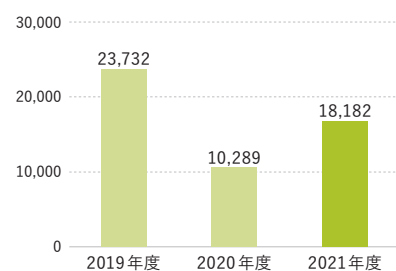
売上高

(単位: 百万円)



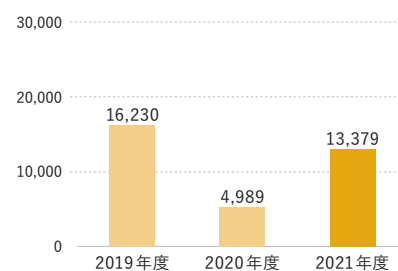
経常利益

(単位: 百万円)



当期純利益

(単位: 百万円)



持続可能な社会の
実現に向けて、
全社一丸となって
活動しています

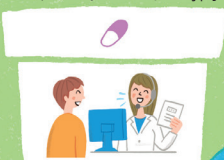
コロナワクチンの配送、
職域接種の実施



オンライン診療・服薬
指導をスムーズに



音声認識技術を活用し、
患者さまとの
コミュニケーション時間を確保



「ミザル」の自動発注機能で
配送と検品の回数を削減



「どこシル伝言板」で
認知症の方を見守り

「健康カフェ」で
地域住民の健康を
サポート



薬剤師がご自宅に
訪問して服薬指導



卸売(10社)

東邦薬品／セイエル
／幸耀／九州東邦／
北陸東邦／沖縄東邦
／酒井薬品／大正堂
／エムコム九州／日
豊メディック

薬局(29社)

ファーマクラスター／ファーマみらい／キュア／ベガファーマ／J. みらいメディカル／青葉堂／厚生／セイコーメディカルプレーン／ファーマダイワ／清水薬局／ストレッチア／太誠堂薬局／コクリーボ／エヌ・エス・ライフコーポレーション／スター・システム／ファルコ／パールファーマシー／北陸メディカルプラン／明德ケアワーク／ヴェルデ／オージープラン／レオニス／ケイ・クリエイト／芳徳薬局／アイケン／センターファーマシー／アクロス／サンライフ／ブレイン

2 新型コロナウイルス感染症対策

検査キットや治療薬の配送、 「顧客支援システム」で感染拡大防止に寄与しています

感染症のリスクを最小限にするために、ワクチンや検査キット、治療薬をすみやかに配送しています。

また、「顧客支援システム」を通じて人と人との接触機会を減らすことで、

感染拡大の防止に取り組んでいます。

「予防」「検査」「治療」に必要な製品の 安定供給に努めています

新型コロナウイルス感染症の予防や早期発見、早期治療を実現するためには、ワクチン、検査キット、治療薬や医療材料などの安定供給が欠かせません。

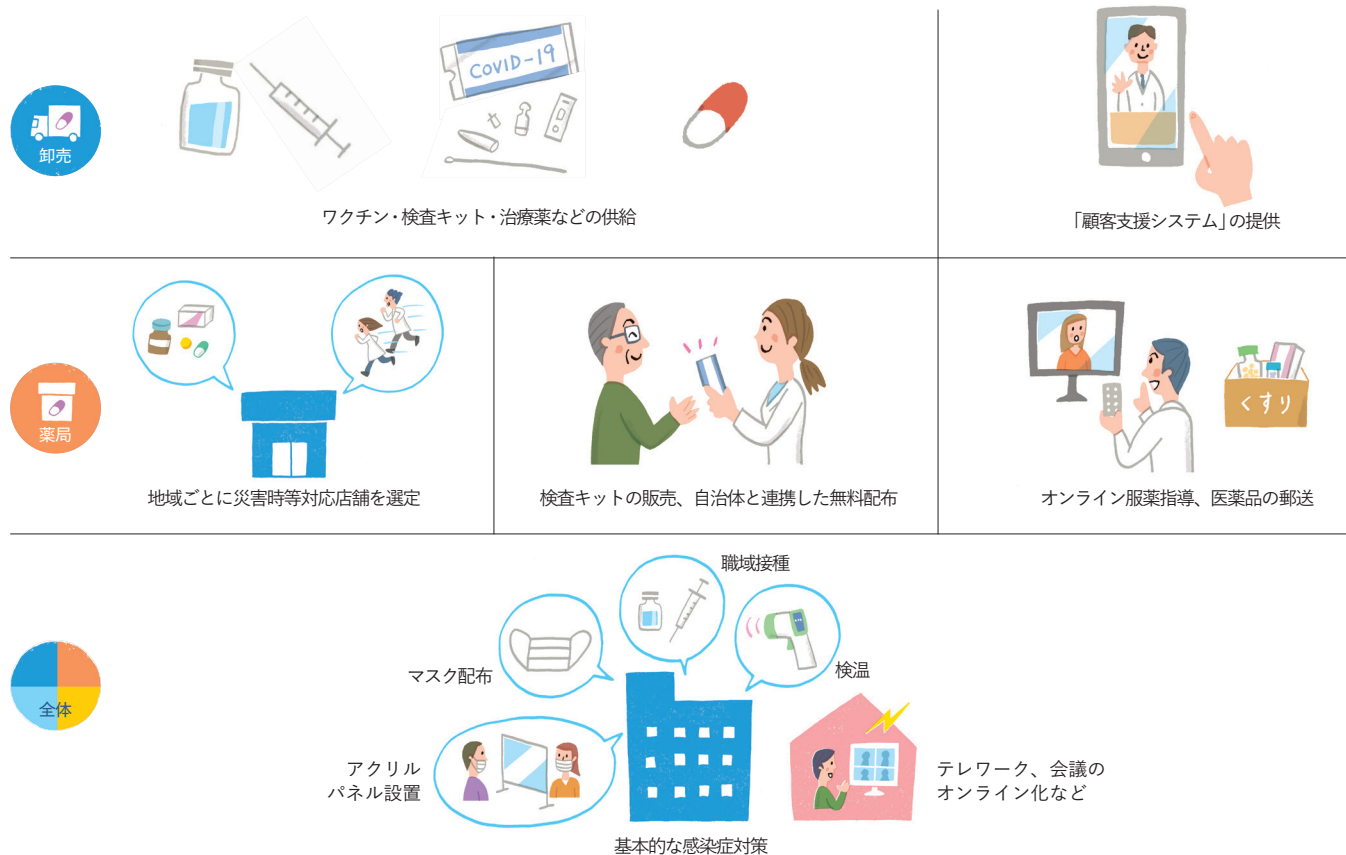
ワクチン関連の配送に関しては、国からの委託を受けて、医薬品卸売事業の各事業所が、医療機関や接種会場にワクチンおよび注射用針、シリンジなどをお届けしています。ワクチンには、超低温での厳格な温度管理が必要なものが含まれているため、物流センターに入荷してから医療機関や接種会場に配送するまでに、温度の逸脱や製品の破損などがなく常にモニタリングしています。また、徹底した品質管理と

もに、各自治体の要請に合わせた対応も行なっており、一部地域においては接種会場から医療機関への小分け配送や、地域の配送拠点としての役割も担っています。

また、検査キットの流通に関して、国は医療の逼迫を防ぐために、症状が軽く、重症化リスクの低い感染者には抗原検査キットによる自己検査をうながしています。当社グループは、抗原検査キットの取扱製品ラインナップを拡充し、医療機関や自治体、各地のPCR検査施設へ配送しています。

さらに、治療薬やマスク、非接触型体温計などの、感染拡大防止に必要なさまざまな製品についても、医薬品卸として長年培ってきた仕組みを生かして、一日でも早く必要とされている方の手に届くよう、グループを挙げて安定供給に努めています。

当社グループの感染拡大防止への取り組み



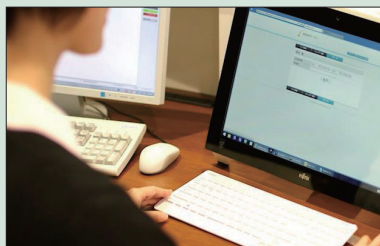
「顧客支援システム」でコロナ禍の医療体制を支えています

当社グループの「顧客支援システム」なら、人と人との接触機会を減らして感染リスクを軽減することができます。それによって医療体制の維持に貢献し、多くの人が安心して治療を受けられるよう支援しています。



病院ナビ

医療機関検索サイト。患者さまは「発熱外来」や「オンライン診療ができる医療機関」など、症状や希望に合わせて医療機関を探すことができます。



初診受付サービス

事前に診察の受付ができるサービス。医療機関では受付時にポップアップ通知を使った発熱患者向けメッセージの発信や、発熱外来専用の問診票の表示が可能。



LXMATE HeLios (エルエックスメイト ヘリオス)

診療予約システム。病院やクリニックの待合室での滞在時間を減らすことで、院内感染のリスクの軽減に役立つ。



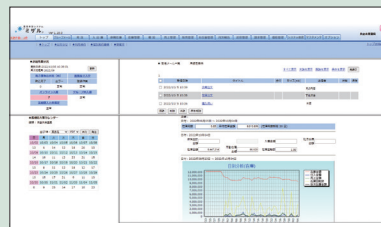
KAITOS (カイトス)

オンライン診療・服薬指導システム。自宅などで診療や服薬指導を受けることができるため、医療機関での感染リスクを負う必要がない。



ENIファーマシー

医療機関から調剤薬局へ患者さま自身で処方せんを送信するシステム。事前の送信により、薬局での待ち時間の短縮につながる。

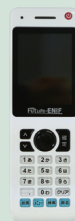


ミザル

薬局本部システム。薬局が医薬品の自動発注機能を使うことで配送回数が最適化され、納品時の接触機会の低減に寄与。

Future ENIF (フューチャー エニフ)

医薬品の発注・情報端末。検品にも使用でき、製品バーコードを読み取ることでひとりでもすばやく発話なしで作業可能。



ワクチンの職域接種を実施しています

グループの関連医療施設では、従業員やそのご家族を対象にワクチンの職域接種を実施しています。2021年6月から2022年5月にかけてのべ20,569人に接種を行ないました。2022年11月からは、4回目の職域接種を進めています。

オンライン服薬指導や医薬品の郵送を行っています

調剤薬局事業の各店舗では、オンライン服薬指導や医薬品の自宅への郵送など、患者さまの要望に合わせた対応を実施しています。

また、(株)ファーマみらいでは、地域ごとに災害時等対応店舗を選定しています。感染症の爆発的な流行などによって一時的に薬の流通や職員の通勤が困難になってしまった場合

でも、薬や人を集約することで安定的に医薬品を提供できる体制を構築しています。

そのほか、グループ内調剤薬局の一部店舗では、自治体のPCR等検査無料化事業にしたがって、検査キットの無料配布や無料PCR検査などを実施しています。

グループを挙げて感染予防を徹底し、事業継続に努めています

- ・社員へのサージカルマスクの提供
- ・アルコールによる定期的な手指消毒の徹底
- ・社員および来訪者への検温の実施
- ・混雑時間帯を避けた時差出勤やテレワークの奨励
- ・オンラインを活用した面談・会議の徹底
- ・オフィス、店舗における毎日の消毒や飛沫防止の
アクリルパネル、ビニールシートの設置
- ・社内外での会食、イベントの中止

3 医薬品卸売事業

物流

災害時でも事業を継続できる 高度な物流体制を構築しています

わたしたちが扱う医薬品は、みなさまの命に関わる商品です。
あらゆる災害対策を講じて、どんなときでも事業継続を可能にしています。

自然災害や感染症流行に備えて BCPを整備しています

医薬品の流通には着実なBCP (Business Continuity Plan : 事業継続計画) が求められます。自然災害や感染症の流行が起こったときでも滞りなく薬を届けています。

●「ノー検品」「センター直送便」を進めています

物流センターにピッキングロボットを導入し、少人数でも正確に出荷できる体制を整えています。また、ロボットでの自動化による高い出荷精度を生かして、納品先で商品ごとの検品が不要になる「ノー検品システム」、営業所を経由せずに病院に直接納品する「センター直送便」を実施。前者は、得意先の業務効率化に、後者は、商品到着までの時間短縮に貢献しています。

●基幹システムの二重化で災害時にも滞りなく出荷します

東京のデータセンターと大阪のデータセンターが常に同期を取り、基幹システムのバックアップ体制を整えています。物流センターが被災した場合は、別の物流センターへ供給元を切り替えることで出荷を継続します。

●「TBCダイナベース」で首都圏災害に備えています

「TBCダイナベース」(東京都大田区)は、環状7号線の内側にある唯一の大規模医薬品物流センターです。基幹的広域防災拠点施設や広域基幹災害拠点病院に近く、周囲にヘリポートや海上輸送基地があり、首都直下地震などに対応します。

TOPICS

石川県金沢市に「TBC北陸」を 新設しました

石川県、富山県、福井県をカバーする物流拠点として2022年5月に稼働を開始しました。外観は、金沢市の町家特有の格子「木虫籠(きむすこ)」をモチーフにしたスリットを採用し、周囲の自然豊かな眺望を取り込みつつ、日差しを遮ることで断熱効果も高めています。耐震性能は、法定基準値の1.25倍以上、自家発電装置も設置し、災害に備えています。保冷库などにはインターロック(二重ドア)を採用し、庫内の温度変化や虫の侵入などを防いでいます。



(左) 建物外観。金沢市の景観形成基準を満たすデザイン。(下左) 自動重量計測を使った「ノー検品システム」。(下右) インターロック(二重ドア)



(左) 「TBCダイナベース」は各防災拠点に近接。
(上) 「TBCダイナベース」は京浜トラックターミナル「ダイナベース」の2～5階を占める



(左) 「TBCダイナベース」の自家発電装置。停電時に72時間フル稼働が可能。(上) 非常時、トラックが通行不可になったときのために、移動用バイクと電動自転車を配備

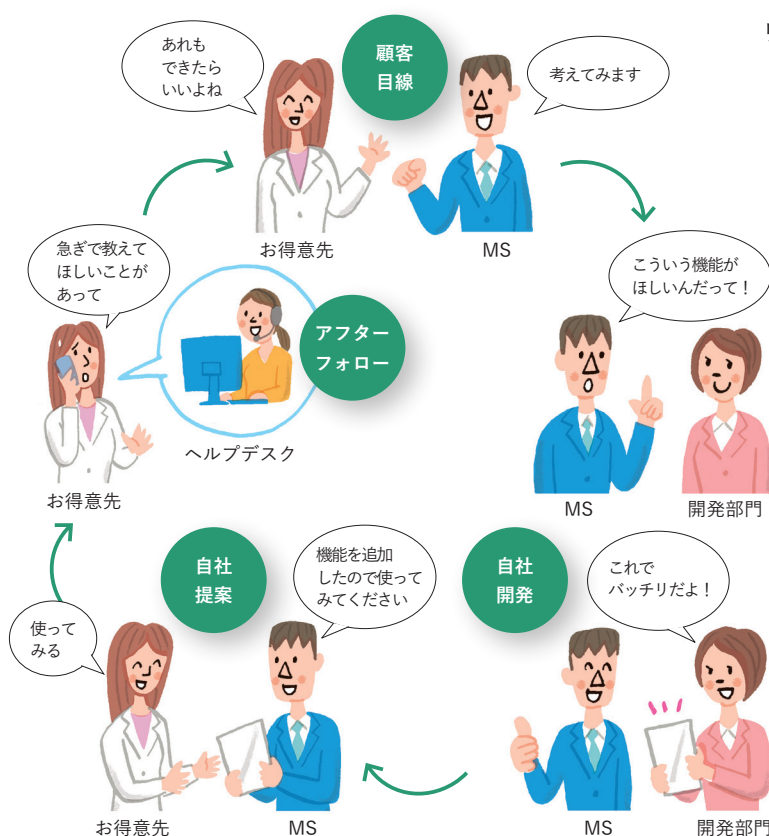
みなさまの課題解決をサポートするため、 日々新しいシステムを開発しています

わたしたちは、患者さまや医療機関のみなさまが抱える課題や潜在的なニーズをつかみ、独自のシステムを開発して解決策をご提案しています。

「健康を願う全てのみなさまを 幸せにしたい」が原点です

「顧客支援システム」は、1990年代の初頭を開発を始めました。きっかけは、MSが病院やクリニックで、早朝から並んでいる患者さまをよく見かけたことです。自宅から電話で予約できれば、待たなくてすむのではないかと。そう考えて、診療予約システム「LXMATE(エルエックスメイト)」を開発しました。また、薬剤師の方からは、「薬をもっと簡単に発注したい。在庫管理をもっと効率化したい」という声をよく聞いていました。そこで、わたしたちは、商品のバーコードを読み取るだけで簡単に発注ができる情報端末「ENIF(エニフ)」を開発しました。以来、お得意先、患者さまのニーズにこたえる製品の販売を続けています。

「顧客支援システム」の強み



お客さまの課題解決に 邁進しています

「顧客支援システム」を開発するにあたり、次の4つのことを大切にしています。

●顧客目線

MSやヘルプデスクは、お客さまから寄せられる要望を親身になって聞いています。

●自社開発

要望を迅速かつ柔軟に盛り込みます。

●自社提案

代理店ではなく、自社のMSがお得意先ごとに効果的な使い方を丁寧に提案します。

●アフターフォロー

MSが現場に赴いて疑問にお答えしたり、ヘルプデスクがリモートアクセスでメンテナンスしたりしています。

お客さまからの要望はデータベース化されて、システムのリニューアルや新システムに生かされます。

主な「顧客支援システム」

- KAITOS(カイトス) ●●●●
- LXMATE HeLios(エルエックスメイト ヘリオス) ●●●
- 初診受付サービス ●●●
- 病院なび ●●●●
- 病院なびホームページサービス ●●●●
- ENIFファーマシー ●●●●
- ENIFwin Nex-Sus(エニフウィン ネクスス) ●●●
- Future ENIF(フューチャー エニフ) ●●●●
- FutureENIF-WEB(フューチャーエニフ ウェブ) ●●●●
- ENIFclub(エニフクラブ) ●●●●
- ENIFvoice SP+A(エニフボイス エスピープラスエー) ●●●●
- ENIFvoice Core(エニフボイス コア) ●●●●
- Core-POS(コア ポス) ●●●●
- ミザル ●●●●
- 医薬品分割販売 ●●●●
- ENIFme(エニフミー) ●●●●
- e健康ショップ ●●●●
- どこシル伝言板 ●●●●

システム名のあとのマークは、そのシステムが対象としている顧客です

- ：クリニック・病院 ●●：薬局・薬剤師会
- ：看護・介護施設 ●●●●：一般消費者・患者さまなど



「顧客支援システム」の詳細はこちらをご覧ください。

4 調剤薬局事業

患者さまに寄り添える薬剤師を育成して、地域の医療に貢献します

当社グループは770を超える調剤薬局を展開しています。

各地の状況に合わせて、地域の方々のセルフメディケーションを手助けしています。

地域で必要とされる 薬局・薬剤師の育成を進めています

地域の方々の健康意識を高めて、健康寿命を延ばしていくために、かかりつけ薬剤師の育成を行なっています。また、大病院での研修も実施し、臨床での業務を通じて、専門的な知識と技術を習得しています。

各調剤薬局では、地域の方々のセルフメディケーションをサポートするため、OTC医薬品の販売にも力を入れています。また、「顧客支援システム」を活用して質の高い服薬指導を行なうだけでなく、業務効率化の実現により、患者さまのご自宅への訪問時間に充てるなど、モノ中心の対物業務から、ヒト中心の対人業務へと業務の転換を進めています。

「地域連携薬局」と「専門医療機関連携薬局」の認定による高付加価値化を目指します

2021年8月から、患者さまが自分に適した薬局を探しやすいように、薬局を「地域連携薬局」と「専門医療機関連携薬局」の機能別に認定する制度が始まりました。前者は、地域のクリニックやほかの薬局とも連携し、医療機関と自宅療養の患者さまをつなぐ役割を担う薬局のことで、入退院時の情報共有などのサポートも行ないます。後者は、がんなどの専門的な薬の管理に対応でき、専門病院と連携できる薬局のことです。各地域の状況に合わせて、両方の薬局をバランスよく配置することを目指しています。

「薬局共創未来」のネットワークで 各地の薬局経営者をサポートしています

ファーマクラスター（株）が事務局となって運営している「薬局共創未来」は、薬局経営者のための会員組織です。薬局経営者の多くは、独立性と自主性を保った経営を続けたいものの、経営効率の向上や人材の確保、社員の教育、医療制度に関わる情報の入手などの課題を抱えています。「薬局共創未来」では、健康サポート薬局の認定に必要な研修や地域連携薬剤師研修を実施したり、OTC医薬品の販売促進につながる情報の提供などを行なっています。

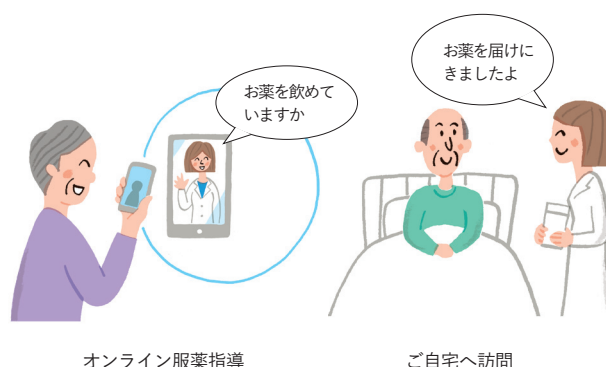


OTC医薬品や生活用品を豊富に取りそろえた「共創未来 鶴ヶ峰駅前薬局」（神奈川県横浜市）。薬の受け取りだけでなく日常的な買い物もできる



グループ内の調剤薬局には「共創未来」の看板が掲げられている。写真は「共創未来 千石町薬局」（山形県酒田市）

当社グループの調剤薬局の強み



厳格な品質管理体制を構築して、ジェネリック医薬品を安定供給しています

グループ内の共創未来ファーマ（株）が高品質なジェネリック医薬品を製造し、卸売事業、調剤薬局事業と連携して、安定供給を続けています。

独自の検証システムを使って高品質な薬を供給しています

ジェネリック医薬品の使用拡大が推進されるなかで、同じ成分の薬に対して複数のジェネリック医薬品が存在する場合があるため、医師や薬剤師のみならず「どれを選べばよいか判断に迷う」という声が挙がっています。また、GMP（医薬品の製造管理及び品質管理の基準）違反による回収がたびたび起こり、市場には混乱や不安が生じています。共創未来ファーマ（株）は、高精度の検査機器を導入し、独自の厳しい基準を設けて、溶出（薬の溶け方）や純度などの品質をチェックしています。

グループ間で市場の需要をつかみ、安定的な供給を実現しています

共創未来ファーマ（株）は、グループの医薬品卸売事業、調剤薬局事業と連携することで、「いつどのくらいの数量が必要とされるか」という市場のニーズをつかみ、継続的に安定供給しています。また、注射剤の製造販売も行っており、品川工場は都心にある唯一の注射剤工場です。羽田空港や「TBCダイナベース」に近いという立地を生かして、災害時でも安定供給が可能です。

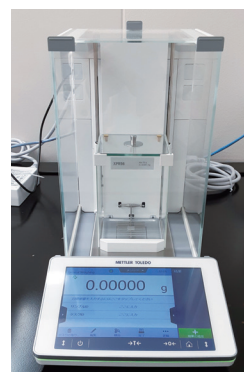
原薬の製造国および製剤の製造企業名を公表しています

医薬品の品質を高く保つため、製造販売事業者は原薬の製造管理・品質管理を求められます。共創未来ファーマ（株）は、原薬の製造を行なう海外の工場に監査に出かけるとともに、その製造国と製剤の製造企業名を公表しています。



卓上走査型電子顕微鏡 (SEM-EDS)

2021年3月に導入された新しい分析機器。波長の短い電子線で薬を観察し、含有されている元素を分析する

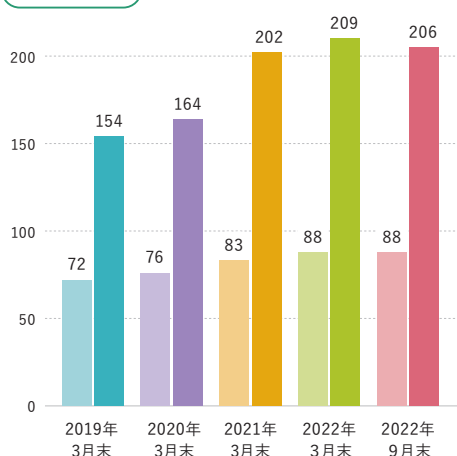


セミマイクロ天秤

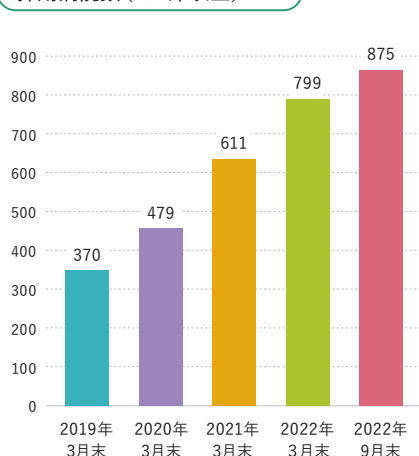
薬の計量を0.00001g単位で行なうことが可能。機械が振動しないように天秤室の下には太い梁を入れている

製品数 ※ 1

左:成分数 右:品目数



採用病院数 (200床以上) ※ 2



※ 1 2022年4月からカウント方法を一部変更しました

※ 2 院内採用施設のみ



共創未来ファーマ（株）の取り組みについてはこちらをご覧ください。



共創未来ファーマ（株）品川工場

よりよい社会づくりのお役に立てるよう、 CSR活動に取り組んでいます

「環境」「患者さま」「顧客」「社員」「地域社会」「株主」。
6つの領域でCSR活動を進めています。
2021年度以降の活動成果を領域別にご報告します。

① 環境のために

エネルギーの使用量を可視化して、 CO₂排出量削減に取り組んでいます

配送の効率化や車両の転換、厳格な生産管理によって、省エネルギーに努めています。



マテリアルフローを把握して 環境負荷の低減を図ります

事業活動を通してエネルギーや水資源、製品、資材を使い、その結果としてCO₂や污水、廃棄物を排出しています。資源の有効活用や廃棄物の削減を進めるために、マテリアルフローを継続的に把握しています。



配送の効率化によって CO₂削減に努めています

●BEMSを活用して電力使用量を管理しています

物流センターは、ロボットやマテリアルハンドリング機

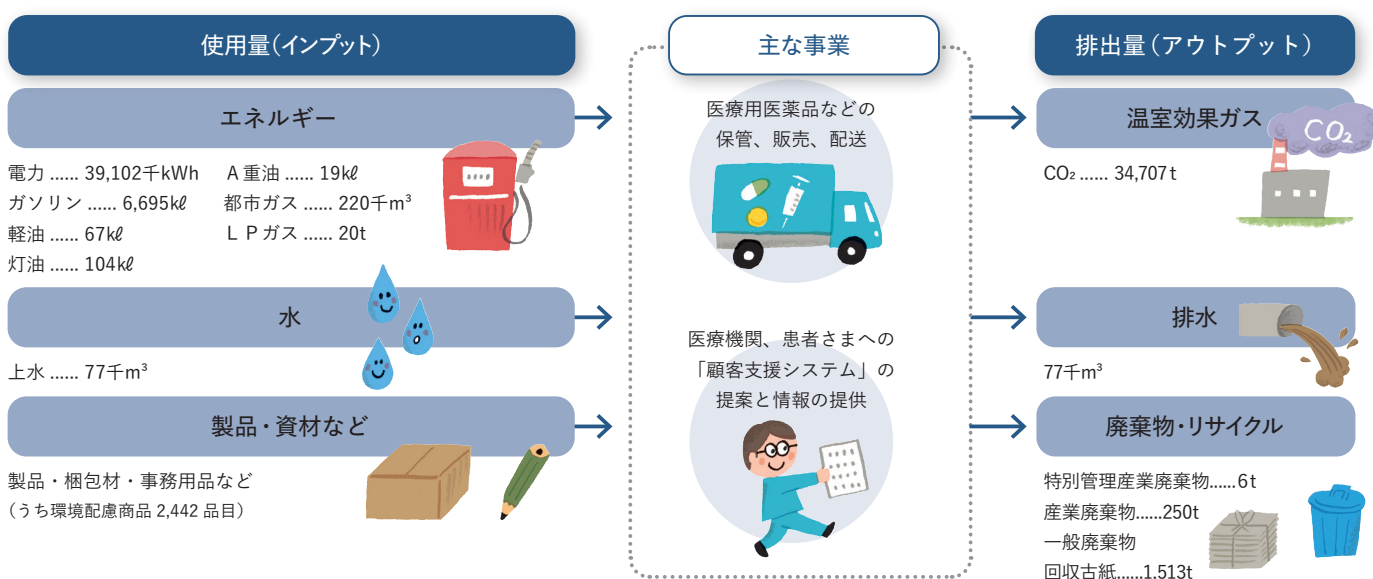
器を多数使用しているため、電力使用量が多くなります。BEMS (Building Energy Management System: ビル・エネルギー管理システム) を導入することで、使用量を可視化し、無駄をなくしています。

●配送の効率化と車両の転換を進めています

「ミザル」の自動発注機能と連動させた計画配送により、(株)ファーマみらいの約6割の店舗では配送回数を週2回以下に削減しました。

また、営業・配送用車両はハイブリッド車や軽自動車などの低公害車両へ入れ替えを進めると同時に、物流センターから営業所を介さずに直接得意先へ納品する「センター直送便」などを活用することで、車両台数の削減にも努めていま

マテリアルフロー (2021年度)



p16-17の表の対象組織(※6を除く): 東邦ホールディングス(株)、東邦薬品(株)、(株)セイエル、(株)幸耀、九州東邦(株)、沖縄東邦(株)、(株)東邦システムサービス、ファーマクラスター(株)、共創未来ファーマ(株)

す。一部地域では、MSが公共交通機関やレンタサイクルで移動する実証実験を実施しています。

●コールセンターでリユースに取り組んでいます

限りある資源を有効活用するためにできることを社員ひとりひとりが考えて実践しています。その活動のひとつが「リサイクル推進プロジェクト」です。社員がまだ使用できる衣類や雑貨を持ち寄って、社内の必要とする人に再利用してもらっています。



廃棄ロスを未然に防ぐとともに、省エネルギーに努めています

●GMPを遵守し、回収・廃棄を防いでいます

共創未来ファーマ(株)は、GMP(医薬品の製造管理及び

品質管理の基準)を遵守することで、違反による薬の回収や廃棄リスクを防ぐことを重視しています。また、卸売事業、調剤薬局事業と協力して市場の需要を予測し、過剰な生産によって廃棄品が出ないように気をつけています。

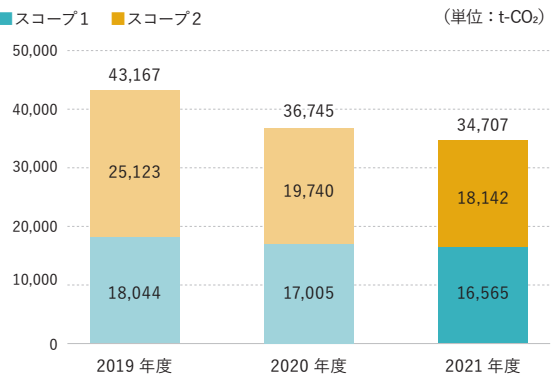
●「ISO14001」を取得し、継続的に改善しています

工場では、注射剤用の水を沸かす「スチームジェネレーター」に断熱カバーをつけるなどして、エネルギーの効率化を図っています。省エネルギーや廃棄物削減に取り組むため、環境マネジメントシステムの国際標準規格「ISO14001」の認証も取得しています。

エネルギー使用量

項目	単位	2019年度	2020年度	2021年度
電力	千kWh	35,218	38,873	39,102
ガソリン	kl	7,336	6,881	6,695
軽油	kl	64	66	67
灯油	kl	111	113	104
A重油	kl	21	23	19
都市ガス	千m ³	209	212	220
LPガス	t	20	18	20

スコープ1と2の推移



温室効果ガス(CO₂)排出量

スコープ	排出源	2019年度	2020年度	2021年度
スコープ1 (自社直接排出) ※1	燃料の使用による排出量	18,044	17,005	16,565
スコープ2 (自社間接排出) ※2	購入した電力の使用にともなう排出量 ロケーションベース ※3	16,271	17,298	16,931
	マーケットベース ※4	25,123	19,740	18,142
スコープ1と2の合計 ※5		43,167	36,745	34,707

スコープ3 (他社間接排出) ※1、※6	カテゴリ1 購入した製品・サービス	321,165	343,982	337,605
	カテゴリ2 資本財	27,001	10,565	9,151
	カテゴリ3 スコープ1と2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	3,506	3,654	3,616
	カテゴリ4 輸送、配送 (上流)	41	38	39
	カテゴリ5 事業から出る廃棄物	384	451	477
	カテゴリ6 出張	374	77	108
	カテゴリ7 従業員の通勤	5,624	5,376	4,588
	カテゴリ13 リース資産 (下流)	—	—	43
	合計	358,095	364,143	355,627

※1 スコープ1およびスコープ3のCO₂排出係数は環境省が公表した「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベースVer.3.2 2022年3月」に基づく値を採用しています
※2 スコープ2のCO₂排出係数は地球温暖化対策推進法に基づく排出係数を用いています
※3 その地域の電力網の平均の温室効果ガス排出係数を使用して算出を行なう方式で、電力会社から購入する電源の種類によらず、使用した電力量に応じて同率の温室効果ガスが排出されると想定した計算の仕方です
※4 電力会社ごとの温室効果ガス排出係数を算定に使用することで、当社が購入している電源の種類を考慮したうえで温室効果ガス排出量を計算する方式です
※5 スコープ2のCO₂排出量はマーケットベースで算出しています
※6 対象組織：東邦ホールディングス(株)、東邦薬品(株)

2 患者さまのために

独自のシステムやサービスを開発して、利便性を高めています

だれもが質の高い医療を受けられるように、社会のデジタル化に合わせて、さまざまなIT技術を活用したサービスを展開しています。



病院探しから、予約、受診、決済まで、「顧客支援システム」でサポートします

●検索サイト「病院なび」で病院探しをお手伝いします

「病院なび」は日本最大級の医療機関検索サイトです。全国22万の病院やクリニックを掲載し、月間1,000万人近くがアクセスしています。

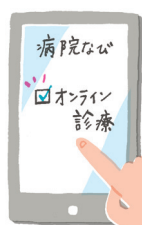
当社グループのMSが独自に収集した医療機関情報を掲載しており、患者さまは自分の希望に合う病院やクリニックを見つけることができます。また、医師が監修した信頼性の高いコラム記事を数多く掲載するなど、ユーザーが求める良質なコンテンツを提供しています。

●「初診受付サービス」で事前に問診に回答できます

「初診受付サービス」は、「病院なび」や各医療機関のホームページから24時間いつでも簡単に初診および2回目以降の受付ができるサービスです。

「事前問診」の機能があり、「どのような症状か」「いつから続いているか」などを回答すると、その内容が医療機関に送信されます。医療機関に問診結果が届くと、その内容に沿って診察の準備を進めることができるため、患者さまはより質の高い診療を受けることができます。

「KAITOS」の特徴



日本最大級の
検索サイト
「病院なび」から
予約可能



専用コールセンターの
スタッフがサポート



ウェブブラウザ版とアプリ版の
どちらかを選択

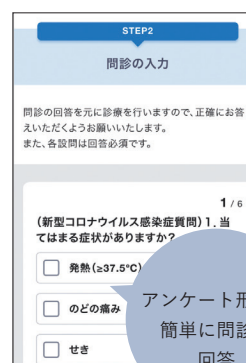
「KAITOS」の
トップ画面。
チャットボットを
使ってリアルタイム
で質問可能



カレンダーから
簡単に
予約



患部の症状の
写真を
送付可能



アンケート形式で
簡単に問診に
回答



ひとりひとりの患者さまに合わせて 情報提供や服薬指導を行なっています

●LINEとデジタルサイネージで情報を提供しています

当社グループの調剤薬局を利用する患者さまは、「けんこうサポートサービス」を利用することができます。これは、当社の薬局店舗に設置しているレセプトコンピュータ「ENIFvoice Core (エニフボイス コア)」と連動したサービスであり、患者さまの調剤・問診データをもとに、LINE配信やデジタルサイネージを活用して、ひとりひとりに合わせた情報を提供するものです。

患者さまが次回来局するまでの間に利用できるのがLINE配信です。服薬中のフォローとして、必要に応じて「正しくお薬を飲んでいますか？」などのやり取りをLINE上で実施し、その履歴を自動的に「ENIFvoice Core」内で管理しています。また、薬の使い方がわからない方に対しては、服薬方法の動画をLINE配信しています。

患者さまが来局時に利用できるのが、店内のデジタルサイネージです。来局した患者さまのデータを「ENIFvoice Core」が読み取ると、デジタルサイネージがその方の属性や疾患に合わせた動画を映し出します。たとえば、40歳以上の女性の患者さまが複数来局した場合に、女性の転倒骨折の原因となる骨粗鬆症の予防について啓発します。患者さまに適切な情報をタイミングよく提供することで、薬の適正使用を推進し、さらなる健康の増進に貢献します。



匂いを軽減する成分を配合するなどして、 飲みやすい薬を用意しています

共創未来ファーマ(株)は、薬を服用される方の負担を少しでも減らせるように、安全で飲みやすい製品を用意してい

「けんこうサポートサービス」による服薬フォローと情報提供



ます。たとえば、2022年6月から販売を開始したEPA・DHA製剤の「オメガ-3 脂肪酸エチル粒状カプセル2g MJT」の原薬は、魚由来で独特の匂いがありますが、レモンオイルを配合することで、服用時の戻り臭の軽減が期待できます。そのほか、水なしでも飲めるOD錠(口腔内崩壊錠)などを用意しています。

TOPICS

(株)ファーマみらいの薬局3店舗で 電子処方せんの取り扱いを始めました

厚生労働省が進める医療分野のDXによって、2023年4月から医療機関での「オンライン資格確認」の導入が原則義務化されます。保険証のかわりにマイナンバーカードを用いて、患者さまが加入する医療保険や自己負担限度額などの資格情報を確認でき、患者さまが同意すれば、診療・服薬情報も取得できます。(株)ファーマみらいでは先行して対応を進め、2022年10月末までに約7割の店舗が導入しています。

また、2023年1月からは、この「オンライン資格確認」のシステムを基盤とした電子処方せんの運用が始まる予定です。医療機関と調剤薬局の間で処方せんがオンライン上で管理されるため、患者さまは紙の処方せんを持ち歩くことなく、どこの調剤薬局でもスピーディーに薬を受け取ることができます。複数の病院、クリニック、薬局で薬の処方・調剤を受けた場合は、重複投薬の防止にもつながります。さらに、災害時にお薬手帳がなくてもいままでの処方・調剤情報の確認ができるので、どこでも定期薬の処方・投薬が受けられます。

導入に先立つ2022年10月末からモデル事業が全国4地域で開始していますが、当社グループの「共創未来 あきほ薬局」「共創未来 ライラック薬局」「共創未来 千石町薬局」(すべて山形県酒田市)も近隣医療機関・調剤薬局とともに、地域のモデル事業に参加して、電子処方せんのシステムや運用面の検証を行なっています。



「共創未来 あきほ薬局」

マイナンバーカード対応の顔認証付きカードリーダー

3 顧客のために

業務に役立つシステムやサービスを提供して、医療機関をサポートしています

医療機関や薬局は、対物から対人への業務のシフトや働き方改革に力を入れています。わたしたちは「顧客支援システム」などで、それらの取り組みをサポートしています。



お客さまの声を反映したサービスで業務改善を支えています

●「FutureENIF-WEB」で薬の発注業務を効率化しています

2022年5月にウェブ版の発注システム「FutureENIF-WEB(フューチャーエニフ ウェブ)」を発売しました。店舗内でパソコンから発注するだけでなく、患者さまのご自宅訪問時に使用するタブレットからも発注可能なので、担当者は発注締め切り時間を気にせず、対人業務などに専念できます。また、発注日時別に、複数の注文用カート内に商品を事前登録できるため、効率的です。パソコンでは、バーコードスキャナ(オプション)で薬のシートのGS1コード(流通のための国際的なコード)を読み取れるので、箱がなくても発注可能です。バーコード連続入力モードでは、数量を入力する必要がないため、時間の短縮につながります。

●「ミザル」で検品や棚入れの負担を軽減しています

「ミザル」は、調剤薬局チェーン店の本部が各店舗の売上や在庫のデータをウェブブラウザ上から一元管理できるクラウド型薬局本部システムです。過去の処方データから需要を予測して薬を発注する「自動発注機能」が付いています。適切なタイミングで適切な量の薬を発注できるので、薬が配送される回数が減り、検品や入庫データ入力、棚入れの回数を減らせます。



「FutureENIF-WEB」の発注画面

●音声入力で薬歴作成と服薬指導をサポートしています

「ENIFvoice SP(エニフボイス エスピー)」と「ENIFvoice SP+A(プラスエー)」は、音声で薬歴を入力できる薬歴作成支援システムです。薬剤師は、短時間で質の高い薬歴を作成することができます。「ENIFvoice Core(コア)」は、音声入力と音声操作を搭載した電子薬歴一体型のレセプトコンピュータです。服薬後に患者さまをフォローする頃合いを知らせる機能があり、患者さまに忘れずに連絡をすることができます。

●「PROOFIT 1D II」で薬の「一包化」の監査を支援します

当社グループでは、一包化監査支援システム「PROOFIT 1D II(プルーフイット ワンドース ツー)」を取り扱っています。薬剤師は、複数の薬を同時に服用する患者さまのために、個々の薬をひとつに包むとともに、間違いがないか確認しています。薬の色や形が似ているものも多く、監査に労力と時間を要します。同システムは、画像認識によって一包あたり約1.5秒という速さで、薬が正しく封入されているかを識別します。

●管理栄養士と薬剤師に実践的な情報を伝えています

調剤薬局に勤務する栄養士の技術向上のため、当社グループの管理栄養士チームが研修を実施し、患者さまへの効果的な栄養アドバイスの手法を教えています。薬剤師に対しては、患者さまから食事についての助言を求められたときのために、処方薬や検査数値から摂取すべき栄養素を判断する方法などを伝えています。

「FutureENIF-WEB」で訪問先から薬を発注





品質管理基準に準拠した 物流体制を構築しています

●「ISO9001」などに準拠した管理をしています

「TBCダイナベース」は、医薬品の適正流通 (GDP) ガイドラインに適合した管理体制を整えています。倉庫内には温度ロガーを62台設置して室温を監視しています。入出荷口にはドックシェルターを完備し、トラックの荷室との隙間を遮断して外気の影響を受けにくくすると同時に、鳥や虫などの混入も防ぎます。また、火災対策として、倉庫のコンベアと連動する防火シャッター

を設置しています。「TBCダイナベース」のほか、埼玉、阪神、広島



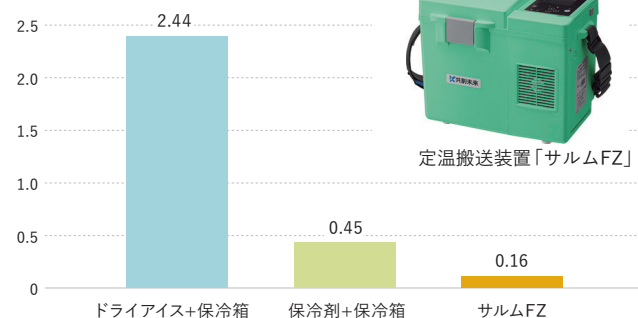
「TBCダイナベース」のドックシェルター

●「サルム」でスペシャリティ医薬品を定温搬送しています

定温搬送装置「サルム」を用いて、厳密な温度管理が要求されるスペシャリティ医薬品を搬送しています。保冷剤による定温管理と違って、温度・装置の状態が装置に記録されるため、品質が担保されていることが証明されます。医薬品の適正流通 (GDP) ガイドラインに準拠した運用であるため、返品・再販売が可能で、廃棄ロスをなくせます。新たに開発された「サルムFZ」による冷凍品搬送では、ドライアイスを使用する必要がなく、CO₂削減にも貢献します。

「サルムFZ」の-20℃以下保管時のCO₂排出量

(CO₂排出量 t-CO₂eq / 年間)



定温搬送装置「サルムFZ」

[算出] 使用先医療機関にて下記条件で1年間医薬品を保管する場合のエネルギー消費やCO₂排出量より算出

[条件] 保管温度: -20℃以下/外気温度: +25℃/収納容積: 4 l / 入替: 保冷方法ごとの持続時間に応じて一定期間で容器を入れ替えて継続保管する(ドライアイス: 4日ごと、保冷剤: 2日ごと、サルムFZ: 7日ごと)/CO₂排出係数: 電気事業者別排出係数0.443kg-CO₂/kWh(東京電力エナジーパートナー公表値/R4年調整後)およびIDEA (Inventory Database for Environmental Analysis) データベースV2.2.2を使用

●「オントレイシス クラウド」で冷蔵庫を管理しています

医療機関の薬剤管理用冷蔵庫向けに、温度管理プラットフォーム「オントレイシス クラウド」を展開しています。庫内温度の自動計測が可能な温度ロガーは、電池を内蔵しているため、停電時や災害時でも自動計測され、品質が保証されます。



お客さまの声を大切にして、 顧客満足向上を図っています

全国3か所のコールセンターで、薬の注文や薬に関する問い合わせに対応しています。また、「KAITOS (カイトス)」などの「顧客支援システム」のヘルプデスクや「共創未来ファーマお客様相談室」も設置しています。



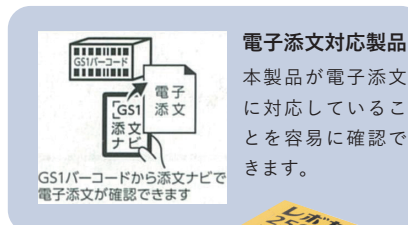
工夫をこらしたパッケージで 薬剤師の業務負担を減らしています

共創未来ファーマ(株)は、自社ブランドの個装箱 (KMPパッケージ) に薬剤師が扱いやすい工夫を施しています。

2021年8月から添付文書の電子化が義務化されたことを受けて、箱と錠剤のシートひとつずつにGS1コードを印字するように進めており、添付ナビですぐに最新の添付文書を開覧できるようにしています。また、独自のピクトグラムを用いることで、電子添付対応製品であることが一目でわかるようにしています。

「KMPパッケージ」の工夫

裏側

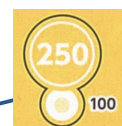


電子添付対応製品

本製品が電子添付に対応していることを容易に確認できます。

含量規格表示

ほかの含量規格も記載しています。この場合、1錠=250mgと100mgの錠剤も販売していることを示しています。



錠剤イメージ図

開封前に錠剤の概要を確認することができます。

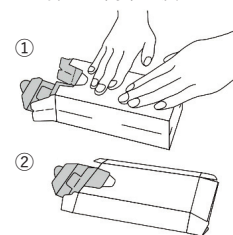
製品情報カード

ミシン目で切り離して薬剤棚の製品情報カード (製品名、GS1コード) として使用することができます。



クラッシュ機能

廃棄するときに、両手で上から押すと簡単に潰れます。



PTPシート

ピッチコントロール (間隔調整) により、製品名や規格、GS1コードを1錠ごとに表示しています。



4 社員のために

ダイバーシティを重視して、 誰もが働きやすい環境を整えています

多様な人材を採用して活力のある会社にしていくとともに、
福利厚生制度を整備してやりがいを持って働き続けられる環境をつくっています。



多様性と人物特性を重視して 採用しています

●性別、国籍などを問わない幅広い人材を活用しています

性別・国籍・年齢などを問わない多様な人材を活用し、社員の個性や能力、チームワークを尊重することで、自由闊達な企業風土を醸成しています。また、社員ひとりひとりが成長できるような働きがいのある職場環境の整備を目指しています。

●職場における女性の活躍を推進しています

当社では、女性社員の活躍を推進するため、管理職に占める女性の割合を現在の11%から30%まで引き上げることを目標にしています。また、女性の平均勤続年数を2年以上延ばすことも目標としています。

共創未来ファーマ(株)でも、性別の区別のない採用および登用に力を入れています。社員の男女比は6対4で、女性

管理職は全体の約20%です。この比率を今後さらに上げていくことを目標としています。

調剤薬局連結子会社における、役員やブロック長などの要職に占める女性従業員の割合は約26%です。

●障がい者雇用を推進しています

2022年3月末時点の当社の障がい者雇用率は2.77%、東邦薬品(株)は2.30%です。引き続き、法定雇用率2.3%を超えるように取り組みを推進するとともに、障がい者の方が働きやすい環境を整えていきます。

●経験と能力のある社員を定年後も再雇用しています

当社は、定年後も引き続きいきいきと働くことを支援するため、継続勤務を希望する社員を「キャリアスタッフ」として再雇用しています。

雇用に関する基本情報

項目		2019年度	2020年度	2021年度
従業員(人)		3,691	3,613	3,529
	うち女性	805	805	817
正社員(人)		3,193	3,085	2,994
	うち女性	764	756	763
嘱託(人)		75	81	90
キャリアスタッフ(人)		410	434	429
契約(人)		798	805	808
臨時(人)		412	396	350
外国人正社員(人)		7	6	6
新入社員(人)		36	52	45
	うち女性	17	30	28
管理職(人)		900	860	811
	うち女性	42	39	36
執行役員(人)		3	4	22
	うち女性	0	0	4
平均勤続年数(年)※1	男性	22	23	21
	女性	15	16	16

※1 正社員のみ

p22-23の表の対象組織：東邦ホールディングス(株)、東邦薬品(株)

女性活躍に関する情報

項目		2019年度	2020年度	2021年度
女性社員比率 ※1、※2		44%	44%	47%
女性取締役(人) ※2		1	1	2
女性執行役員(人) ※2		0	0	2
管理職に占める女性の割合 ※2		12%	11%	11%
新入社員に占める女性の割合		47%	58%	62%

※2 東邦ホールディングス(株)のみ

障がい者雇用率

項目		2019年度	2020年度	2021年度
障がい者雇用率(%)	東邦ホールディングス(株)	2.62	2.66	2.77
	東邦薬品(株)	2.10	2.18	2.30

再雇用制度の利用者数

項目		2019年度	2020年度	2021年度
定年到来者(人)		102	112	113
再雇用制度利用者(人)		89	103	101



子育てと仕事の両立を支援しています

●企業内保育園を運営しています

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）への取り組みの一環として、物流センター「TBC札幌」内で「みらい保育園」を運営しています。



「みらい保育園」



研修を通して、社員の能力向上に取り組んでいます

●顧客支援に重点を置いたMTP研修を実施しています

顧客のニーズをつかみ、さまざまな提案ができる社員を育成するため「MTP (Medical Total Planner) 研修」を実施しています。修了生はさらなるスキルアップのために、ディスカッションおよび実践を中心とした「Senior MTP研修」を受講できます。

●MSのさらなるスキルアップを支援しています

病院経営に関する知識を習得し、課題の解決法を提案できるMSを育てるために、病院担当のMSに向けて2022年5月から「リスクリング研修」を実施しています。また、医療経営士資格の取得支援も行なっています。



「リスクリング研修」。リスクリングとは、社会の変化に合わせてスキル（技術）を学び直すこと

●年間を通じて、充実した新入社員研修を実施しています

新入社員に対しては、会社の事業内容や製品、サービスを学ぶための講義やグループワークを実施しています。配属までの期間は営業所や物流センターでの実地研修で知識の深化を図ります。配属後もMS研修や薬剤師向けの疾患別研修などを行ない、職能別に業務に必要な基礎知識を身に付けています。



ひとりひとりの人権・人格を尊重し、働きやすい環境を整備しています

●人権を尊重した職場づくりを進めています

倫理綱領を定め、社員の人権・人格を尊重し、個々の個性・能力を引き出すことができる健全で良好な職場づくりを推進しています。

●ハラスメントの防止規程と相談窓口を設けています

セクシャルハラスメントやパワーハラスメント、妊娠・出産・育児休業に関するハラスメントなどを防止する規程を設けて、社内外に専用相談窓口も設置しています。相談者が不利益を受けないように配慮するとともに、ハラスメント事案の原因を分析し、再発防止に努めています。

●「健康経営宣言」を制定し、社員の健康を推進しています

当社は、「健康経営宣言」を制定し、「一般定期健康診断受診率100%」「健康に関するセミナー・研修などを通じた自身の健康管理意識の向上」「女性特有の健康課題についての理解を全社員が深める」「喫煙率低下」を目標に掲げ、社員の健康増進を積極的に進めています。

主な福利厚生制度と取得実績

項目	内容		2019年度	2020年度	2021年度
育児休業制度（人）	父母ともに休業を取得する場合、子が1歳2か月に達するまでの間に1年間の休業を取得でき（パパママ育休プラス）、子が1歳半、2歳に達するまで延長できる（諸条件あり）	男性 女性	1 70	3 77	6 72
育児短時間勤務制度（人）	復職後、子が3歳に達するまでの勤務時間を5時間45分から6時間の範囲内に短縮できる	男性 女性	1 21	1 43	0 53
介護休業制度および介護休暇制度（人）	要介護状態の家族を持つ場合、年間93日までの休業を取得できるほか、年5日までの休暇を取得できる	男性 女性	0 1	0 3	0 1
介護短時間制度（人）	復職後1日2時間以内での短縮勤務を選択できる	男性 女性	0 1	0 1	0 0
リフレッシュ休暇および奨励金付与制度（人）	勤続年数10年、20年、30年、35年の対象者に休暇と奨励金を付与	男性 女性	263 57	226 53	224 56
年金相談（人）※3	社会保険労務士による面談方式の個別年金相談を実施	男性 女性	31 4	12 2	26 2
健康相談（回）※3	月1回、産業医による健康相談を実施	男性 女性	1 4	1 0	0 3
栄養相談（回）※3	管理栄養士による栄養相談を実施	男性 女性	18 19	1 1	0 0
年次有給休暇平均取得率（%）		東邦ホールディングス（株） 東邦薬品（株）	57.2 38.6	50.3 37.7	57.9 40.7

※3 2020～2021年度はコロナ禍の影響で参加人数と開催回数が減っています

5 地域社会のために

健康に資する取り組みを通じて、 地域のみなさまを支援しています

「どこシル伝言板」の提供や「見守り協定」の締結を通じて、認知症高齢者のご家族をサポートしています。各調剤薬局は、「健康カフェ」や健康食の提供で、セルフメディケーションを支援しています。



地域のみなさまとともに 見守りの輪を広げています

●「どこシル伝言板」で認知症高齢者のご家族を支援します

「どこシル伝言板」は、認知症高齢者や障がいのある方を見守るための情報共有サービスです。行方不明者の服や持ち物に貼られたQRコードを発見者が読み取ると、ご家族にメールが送られます。QRコードを利用しているため、「どこシル伝言板」を知らない人でも見守りに参加できます。発見者もご本人もご家族も個人情報を登録・入力する必要がありません。

自治体からは、DXの一例としてだけでなく、SDGsの目標「3.すべての人に健康と福祉を」と「11.住み続けられるまちづくりを」に合致するものとして注目されています。

今年度から北海道と沖縄県を含む全地方で導入され、2022年10月末時点で38都道府県250市区町村に拡大しています。福井県鯖江市では、警察と連携してメールの送信先に鯖江署も加えました。同県では他の自治体でも導入が進み、県警の依頼により各署へもメール送信する仕組みが構築され、連携は進んでいます。

導入先では、自治体と協力して認知症の方への声かけ模擬訓練を実施しているほか、バス広告や自転車用マグネットなど、さまざまな媒体でPRしています。また、当社グループ内の薬局でもポスターを掲示するなどして周知しています。

●「認知症サポーター」を増やしています

当社グループの従業員は、全国キャラバン・メイト連絡協

議会が運営する「認知症サポーター養成講座」を積極的に受講しています。2022年10月までに、のべ3,623人が受講し、「認知症サポーター」に認定されています。

TOPICS

北陸東邦（株）が石川県から 「ハートフルサポート企業」の ゴールド認定を受けました

近年、各自治体は、認知症高齢者や障がいのある方、子どもたちを見守る目を増やすため、民間の事業所と「見守り協定」を結んでいます。当社グループの事業所も各地の自治体と見守り協定と結んでおり、北陸東邦（株）も石川県と協定を結びました。2021年9月には、認知症への理解を深め、積極的に取り組みを行なう企業として、「いしかわ認知症ハートフルサポート企業・団体」のゴールド認定を受けました。



「どこシル伝言板」のPR活動



声かけ模擬訓練
(静岡県伊東市)



学生向け講義
(沖縄県糸満市)



バスの車内広告によるPR
(広島県東広島市)



ポケットティッシュによるPR
(山形県飽海郡遊佐町立図書館)



セルフメディケーションを 支援しています

●調剤薬局で「健康カフェ」を開催しています

当社グループの調剤薬局は、薬局内で「健康カフェ」を開催しています。毎回テーマを決めて、薬剤師が認知症の薬について講話したり、管理栄養士が予防のための栄養相談を実施したりしています。ときには病院に勤務する看護師の方など、地域の医療関係者を招いた講話、脳トレや体操なども取り入れています。

●「古河Marché」で健康食品を販売しています

(株)ファーマみらいが運営する「共創未来 古河南薬局」(茨城県古河市)では、「スーパーへ買い物に行くように、気軽に調剤薬局に来てほしい」という思いから、OTC医薬品や健康食品を販売する「古河Marché」というフェアを開催しています。毎月テーマに合わせてさまざまな商品を取り揃えるだけでなく、管理栄養士が健康や栄養のアドバイスも行なっています。

●薬局に隣接したカフェで健康食を提供しています

(株)J.みらいメディカルが運営する「きららみらい薬局 千林店」(大阪府大阪市)に隣接する「きららみらい 星の子Cafe」では、管理栄養士が常駐して、ヘルシーな料理やスイーツの考案、調理を行なうと同時に、お客さまへの栄養指導も行なっています。2021年は、大阪樟蔭女子大学と協力して、健康栄養学部の学生を対象にした「健康レシピコンテスト」を実施し、その最優秀賞2品をカフェで販売しました。

●アロマの販売やワークショップを行なっています

ベガファーマ(株)がチェーン展開する「くるみ薬局」(大阪府、兵庫県)は、処方せんがないときでも気軽に来局していただくために、アロマ用品を販売しています。スタッフはアロマについての研修を受けて、患者さまにアドバイスをしています。また、店舗内や地域の施設などで、アロマスプレー作りなどのワークショップも実施しています。2021年8



「くるみ薬局 蒲生店」(大阪府大阪市)での「秋のアロマ健康フェア」の様子



(上)「きららみらい 星の子Cafe」のスタッフは全員、管理栄養士。
(左)「健康レシピコンテスト」の最優秀賞2品「夏のスタミナロール」と「梅トマキムチ和え」

月には、武庫川女子大学薬学部と、教育および臨床研究の連携・協力に関する協定を締結。同年10月には薬学部薬学科の学生に向けたアロマセミナーを行なうなど、地域医療に貢献する薬剤師の育成に向けた相互連携を深めています。



創業の地・世田谷で スポーツやアートを支援しています

●女子サッカークラブのオフィシャルパートナーです

「スフィータ世田谷FC」は、「サッカーに対し熱く純粋な想いを持った女性へ最適な環境を提供すること」を使命として、2001年に設立されました。当社はその理念やスポーツを通じて良好なコミュニティを築くことを目指している姿に共感し、2013年からオフィシャルパートナーとして支援を続けています。

●チャリティーイベントで障がい者の就労に協力しています

「世田谷アートタウン」のイベント「フラッグリサイクルプロジェクト」に協賛しています。会期中は街路灯に協賛社名などを記したフラッグ(旗)が掲げられ、会期後にエコバッグやアクセサリ、文具入れなどにリサイクルされます。その作業を福祉作業所に委託することで、障がいのある方々の就労を支援しています。

●演劇公演に高校生を招待しています

世田谷パブリックシアターの舞台芸術普及プログラム「未来の舞台人を創る」に協賛しています。生徒たちの夢の実現を応援するために、同シアターで行なわれる公演に、首都圏の高校の演劇部生徒を割引価格で招待しています。2021年度は11校から50名の生徒を招待しました。

●「子供の未来応援基金」に寄付しています

内閣府が推進する「子供の未来応援国民運動」に賛同し、「子供の未来応援基金」に寄付をしています。集まった基金は、子供食堂や学習支援を行なうNPO法人などへの支援金に充てられています。



(左) なでしこリーグに所属する「スフィータ世田谷FC」。背中に「共創未来」のロゴ。(上) 選手たちとともに、世田谷区の本社近くの緑道や公園の清掃活動を実施

6 株主のために

ガバナンス体制を強化して、健全な経営を続けていきます

株主や投資家のみなさまの期待と信頼に応える企業であり続けるために、ガバナンスや情報開示の強化に取り組んでいます。



健全な経営を継続できるよう ガバナンスを充実させています

当社は、経営活動の透明性と健全性を維持し、意思決定の迅速化、経営責任の明確化、経営に関する監査や監督の強化を図るため、コーポレート・ガバナンスの充実に継続的に取り組んでいます。

● バランスの取れたガバナンス体制を構築しています

取締役会では、経営上の意思決定および業務執行の監督を行なっています。機動的な経営体制を構築し、責任や評価を明確化するため、取締役の任期は1年、監査等委員である取

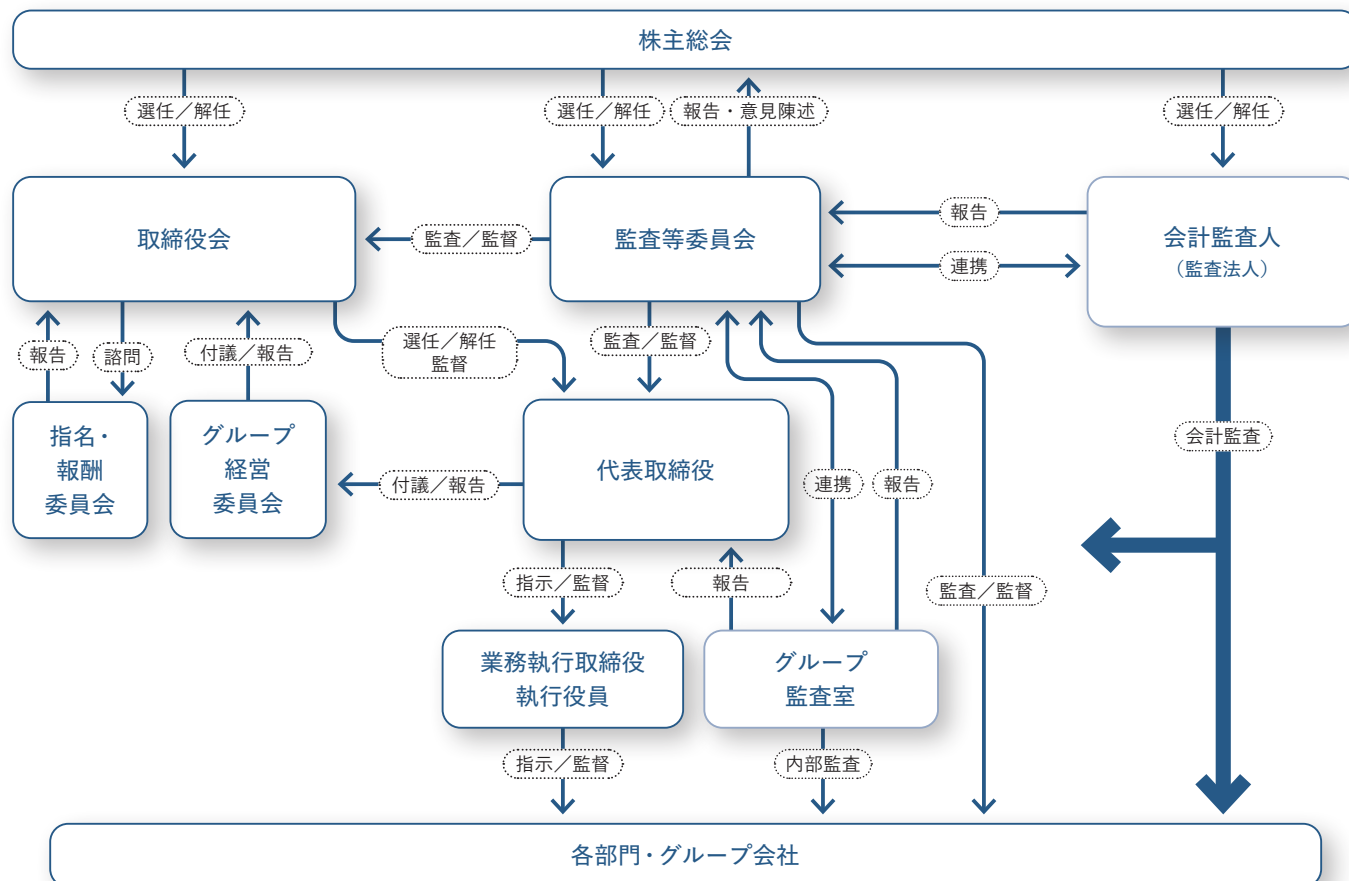
締役は2年としています。

取締役の構成については、2022年6月の株主総会にて、取締役総数を減員するとともに、引き続き社外取締役と女性取締役の割合の適正化を図りました。また、取締役の諮問機関として、社外取締役を過半数とする任意の「指名・報酬委員会」を設置し、委員長を社外取締役から専任することで、役員の指名・報酬などに関する意思決定の透明性・客観性を高めています。

● 監査等委員会が適法性や透明性を監査・監督しています

取締役会での意思決定プロセスについては、監査等委員である取締役3名（全員社外取締役）が、議案内容の適法性を

当社の業務執行体制、経営監視体制および内部統制の関連図



吟味し、経営の透明性を確保するための監査・監督を行っています。

さらに、グループ会社の監査を行なうグループ監査室や会計監査人と定期的に情報共有や意見交換を行なうなど、監査体制の強化に取り組んでいます。

●内部通報制度を導入しています

社内の不正行為の未然防止と早期発見を目的に、内部通報制度を整備しています。法令違反などの問題を知った従業員は直接窓口で報告できます。また、情報提供者の保護を徹底しています。



適時・適切に情報を開示してIR活動に取り組んでいます

当社は、金融商品取引法などの関連法令や東京証券取引所が定める適時開示に関する諸規則を遵守し、公平かつ適時・適切に企業情報を開示するなど、IR活動（Investor Relations：投資家向け広報）に積極的に取り組んでいます。

●ウェブや音声配信を活用して決算説明を行なっています

第2四半期（中間）決算と本決算後には、機関投資家・証券アナリストなどを対象とする決算説明会を実施しています。2020年度以降は新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインによるライブ配信を行なっています。

また、当社ウェブサイトにおいて決算説明会の資料を公開するほか、音声による配信サービスも行なっています。加えて、機関投資家との個別ミーティングにも積極的に取り組んでいます。

●海外投資家向けに開示文書などの英訳を公開しています

海外の機関投資家向けには、開示文書や決算説明会資料の英訳をウェブサイトに掲示するほか、経営トップによる機関投資家との対話も実施しています。



薬の情報提供を適正に行なうため教育・監督を徹底しています

●ガイドライン遵守のため販売情報監督室を設置しています

厚生労働省は、医薬品の広告やPR活動をより適正なものにしていくために、「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン」を策定しています。医薬品卸売事業各社と共創未来ファーマ（株）は、販売情報監督室を設置して、このガイドラインに準拠した情報提供ができるよう、従業員を教育・監督しています。共創未来ファーマ（株）は、外部の弁護士や薬剤師を加えた審査・監督委員会も定期的に開催し、資料の適正性を審査しています。



株を1単元以上保有する株主へ株主優待品を贈呈しています

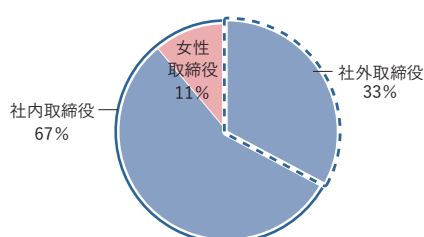
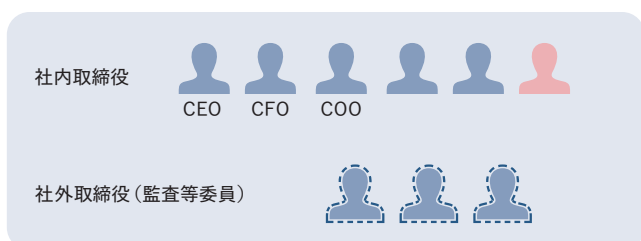
当社では、毎年3月31日（当社期末）最終の株主名簿に記載または記録された1単元（100株）以上を保有する株主へ、株主優待品を贈呈しています。



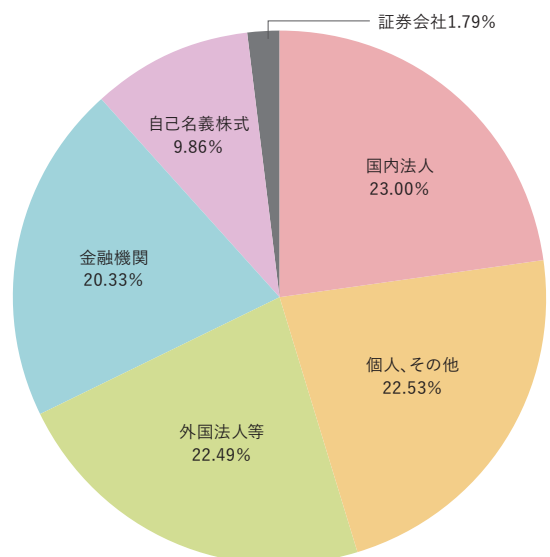
株主優待品の
保湿ティッシュと
ロールペーパー

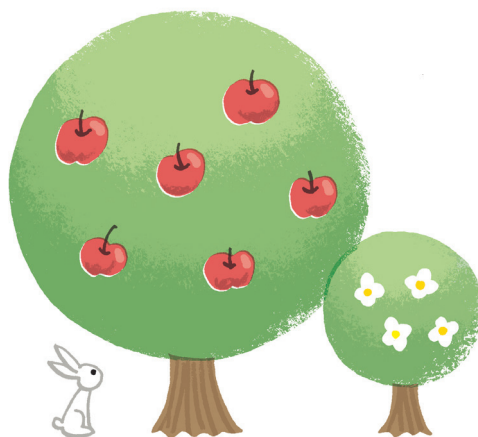
取締役会の構成（2022年6月末時点）

ブルーは男性、ピンクは女性、ふちどりは社外取締役



所有者別株式分布状況（2022年3月末時点）





全ては健康を願う人々のために

✧ 共創未来

 東邦ホールディングス株式会社

本社

〒155-8655 東京都世田谷区代沢5-2-1

TEL.03-3419-7811（代表）

CSR報告書のお問い合わせ

丸の内オフィス（広報IR本部 IR部）

〒100-6613 東京都千代田区丸の内1-9-2

グラントウキョウサウスタワー 13F

TEL.03-6838-2830

<https://www.tohohd.co.jp/>

アンケートの回答にご協力ください



本報告書は、環境に配慮し、FSC® 認証紙を使用し、植物油のインキを使って「水なし印刷」で印刷しています。